

科目名	発達障害心理臨床			担当教員	野村 香代
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	臨床心理士、公認心理師				
実務経験を生かした授業内容	臨床心理士として小中学校の巡回相談を行なう中で、教育現場から挙げられる事例に基づき、発達障害児の困り感や支援のあり方について考える視点を提供する。				
到達目標及びテーマ	1.主要な発達障害の特性と診断基準を理解し、個々の行動の背景にある心理的・神経学的要因を適切に説明できる。 2.発達障害児が学校生活や家庭で抱える困り感や、その家族の心理的状況を共感的に理解し、本人の強みを活かした具体的な支援のあり方を検討できる。 3.教育・福祉・医療等の連携の重要性を理解し、個別の指導計画や合理的配慮の考え方に基づいた、実効性のある支援方法を提案できる。				
授業の概要	本講義では、発達障害を持つ子どもたちへのよりよい教育的・福祉的支援を実現するために、発達障害の基礎知識から心理臨床の実践までを体系的に習得する。 前半では、主要な発達障害の特性や診断基準の基礎を学ぶ。後半では、それらの知識を土台とし、教室や施設での具体的な困り感に応じた環境調整や個別の支援技法、および保護者支援の実際について検討を深める。 特筆すべき点として、第13回・14回には、教育や福祉の最前線で活躍する専門家をゲストスピーカーとして招く。現場の生きた声を聴くことで、多職種連携の実際や支援の困難さとやりがいを理解し、将来の専門職としての自覚と、現場で通用する実践的な支援力を養う。【デジタル技術利用 該当番号：①、③】				

授業計画	
第1回	障害とは/発達障害の概念/知的能力障害とは
第2回	限局性学習障害【SLD】
第3回	自閉症スペクトラム障害【ASD】とは
第4回	注意欠如多動性障害【ADHD】とは
第5回	発達性運動協調障害【DCD】とは
第6回	学校現場でみられるその他の障害
第7回	早期発見
第8回	家族支援
第9回	支援の基本
第10回	さまざまな支援方法①：行動への支援
第11回	さまざまな支援方法②：社会性の発達への支援
第12回	アセスメント方法
第13回	支援の現場を知る：ゲストスピーカーによる講話①
第14回	支援の現場を知る：ゲストスピーカーによる講話②
第15回	講義のまとめと最終レポート

事前学修	2時間	次回の講義に該当する部分を指示するので、テキストを読みこみ、基礎知識に関して整理しておくこと。
事後学修	2時間	講義内容を振り返り、今後の学習や実践につながるように、まとめておくこと。また、関連する新聞記事等を読み、関心を深めていくこと。
フィードバックの方法	①振り返りシート、レポートは、必要に応じてコメントして返却し、質問事項に関しては講義で解説を加える。 ②小テストを実施し、返却して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

上記以外の試験・平常点評価		100%	①各授業後の振り返りシート（20%）、②小テスト（30%）、③最終テスト(50%)	
定期試験		0%	実施しない	
補足事項				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	適宜配布する			